

ふみびと

第339号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

いつかの気持ち 新鮮なままに

「慣れ」の向こうに

ある日の微笑ましい光景。
ようやく歩くことを覚えた頃であろう「赤ちゃん」を卒業したばかりのように見える幼い子どもが、離れた両親のいるところまで弾けるような満開の笑顔で駆け寄る姿。

ほんの一年前までは自分で満足に動くこともできなかつた鬱憤を晴らすかのように、あるいは大好きなお父さん、お母さんの姿を見て抑え切れない喜びを表現するように

力いっぱい走る姿は、思わずこちらまで笑みがこぼれるような温かい光景でした。

自分の足で思い切り駆け回れること、大切な人のそばにいられること、どちらも大きくなって当たり前のことになるにつれて忘れていくけれど、

きつと自分も子どもの頃はあんな風に嬉しくてたまらなかつたんだろうなと思います。

嬉しい、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

嬉し、楽しい、そんな気持ちで隠し切れない

手間と時間が作るもの

久しぶりにお菓子作りをする。普段も料理はするけれど、お菓子は特別。手間と時間がかかるし、簡単に美味しいものが買えるから、なかなか重い腰が上がらない。その日もかすかに面倒に思う気持ちを抱えて、キッチンに立った。材料を並べ、一つずつ量る。手間はかかるけれど、そ

は、少しの不安と期待が入り混じる。やがてオーブンからは甘い香りが漂い、タイマーが告げる時間

の作業に心が落ち着く。レシピ通りに材料を混ぜ、オーブンに入れ、焼き上がるのを待つ。待ち時間に、子に味わいながら、手間をかけることの価値を改めて感じる。素朴な見た目と味わいのお菓子は、お腹だけでなく、自分の日常に小さな幸せの贈り物をしたような、そんな満足感で、心もいっぱいにしてくれた。



風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務信同の筒さで流す。宛封下まで交り局用封今いま



今年の目標

何事も全力で喜ぶことは難しいかもしれないけれど、たまには子どもの頃に小さなことで大きな思い出を出してみたいものです。
両親に駆け寄るときの「嬉しい」の笑顔。見ている人まで笑顔にさせる、そんな笑顔の時のようなことを。
毎年恒例「今年の目標（みんなの投稿冊子）」を2月15日頃に文通村ホームページ上で発表いたします。たくさんさんの投稿が届いておりますのでお楽しみに。これを機会にご縁が繋がります手紙の交流が始まっていけば事務局としても嬉しいです。

次回発送日

2月の発送は26日(月)の予定です。
送りたいお手紙がある場合は22日までに事務局に到着することをお近くの郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。

